

2 本県の体力向上に関する課題

(1) 体育・保健体育の授業

体育・保健体育に対する意識においては「楽しい」「運動好き」「卒業後も運動してみたい」には強い相関関係がある。また、体育・保健体育が「楽しい」と回答した児童生徒ほど「運動時間」が多く、「体力合計点」が高い。

すなわち、体育・保健体育の授業においては、児童生徒の「楽しい」を引き出すことが重要である。

また、児童生徒は、体育・保健体育の授業が楽しくなるためには「自分に合った場やルールで行うこと」が必要だと感じており、「友達と学ぶこと」の大切さも認識している。

これらのことから、自己の課題を明確にして、その解決に向かって場やルールを工夫しながら友達と共に学び合う授業が求められている。

まさに、主体的で対話的な体育・保健体育の授業づくりが、豊かなスポーツライフにつながっていると考えられる。

(2) 体力（「令和6年度 全国体力・運動能力 運動習慣等調査」の調査結果より）

- 体力の合計点は、全国平均値と比べると、中学女子で全国平均値を上回ったが、小学男女・中学男は下回った。
- 「握力」は、中学男女は全国平均値を上回っているまたは同レベルであるが、小学男女が下回った。
- 「長座体前屈」は、小学・中学男女で全国平均値を下回ったが、中学男で大幅に上昇し過去最高の記録となった。
- 「反復横とび」は、中学男女は全国平均値を上回っているまたは同レベルであるが、小学男女が下回った。
- 「持久走」「20mシャトルラン」は、小学・中学男女で全国平均値を上回った。
- 「50m走」は、小学男女は全国平均値を上回ったが、中学男女は下回った。
- 「立ち幅とび」は、中学男女は全国平均値を上回ったが、小学男女は下回った。
- 「ボール投げ」は、小学・中学男女で全国平均値を上回っているまたは同レベル。
- 「1週間の総運動時間が420分以上」の割合は、全国に比べると高く、小学生において男女共に昨年度を上回った。また、「1週間の総運動時間が0分」の割合は、中学生において昨年度よりも減少した。しかし、小学生においては増加傾向にある。

(3) その他

子どもたちの健全育成を目指し、生徒の自主的・自発的な参加により行われる運動部活動においては、生徒のバランスのとれた生活と成長の確保やスポーツ障害の予防、教職員の負担軽減などの観点から、適切な休養日を確保し、組織的に運営していく必要がある。